

さんぼう
三方よし

第16号
2000/9

CONTENT

特集 めざせ未来の近江商人	2~4	AKINDOネットワーク始動	6~7
シリーズ 現代に息づく近江商人魂	5	金言名句	7
シリーズ 近江商人と文化・芸術		新刊案内/行事予定/てんびん棒	8
シャケ缶詰の「中一」の終焉と口話法の誕生	5		



夏祭りの屋外販売での実習



体験実施店舗のステッカー



種苗店での商品整理作業

三方よし「三方よし」は近江商人共通の経営理念。「売手よし、買い手よし、そして世間よし」の精神で地域社会に大きく貢献した。本紙は近江商人を代表する理念を主題としている。

特集

めざせ未来の近江商人!!

— 商い体験の事例より —

2～30年前までは、商家の子供は大なり小なり自分の店の手伝いをしていたものだが、職住が分離された近年の商店では、商家の子供であっても店の手伝いをする事は少ない。さらに多くの家庭が給与生活者である社会状況からも、児童・生徒が一般実業社会との接点が乏しい状況となっている。

近江商人の発祥の地のひとつの近江八幡市にある近江商人の士官学校といわれた八幡商業高校で、修学旅行などでの販売実習が実施されているが、県下では初めて小学生を対象とした商い体験が今夏、開催された。本号では事業の周辺を報告する。

小学生37人 商いの修業

大阪の長等、大津町商店街、立派な商店街の児童が七、八の両日、近々の長等、菱屋町商店街で商いの修業を体験し、写真、「コンビニ」時代の子どもに、商店街の魅力を知ってもらおうと、大津商工会議所が初めて企画した。三年生から六年生までの三十七人、二、三人のグループに分かれ、魚、果物、花屋、飾物、おもちゃ屋など十店舗で、一日二時間にあたって接客や商品の陳列などを学んだ。

魚屋「丸」(魚屋)では、六年生の松原(こ)と大野(あ)が魚の値札付けをした。「一生の魚を贈ったのは初めて」と言いながら、タコやアナゴ、カレイを量りにのせ、値段を札に書き込んだ。

漬物屋「八百屋」では、三年生の大橋(あ)と「いちご」(あ)が、客を呼ぶ「しゃい」と大声で客を呼び込み、客が水魚と、素早くなら漬物を選んで、お釣りを渡し、「ありがとうございました。店主の「おいしいね」と話していた。

小島(あ)さんは「商い体験」が楽しかった。

全国でもユニークな企画事業 「こども商い体験」彦根商店街で開催

文部省では平成十四年からの完全週五日制への移行を前に緊急三ヶ年計画「全国子どもプラン」が策定されたが、県内でも児童・生徒の活動の場づくりの一環として通産省・中小企業庁の支援も受けて「子ども商業活動体験」が実施されることとなった。

滋賀県内十三の商工会議所および商工会が事業主体となっており、具体的な展開がスタートした。

彦根市では、県内でも大きが彦根商工会議所が中心に彦根市教育委員会、彦根商店街連盟、地場産業各協同組合などの協賛を得て、夏休み期間中の七月二十二日から八月五日にかけての土日の五日間、市内中心部の十二の商店街を会場に「子育てKIDS―親子ふれあいフェスティバル」を開催した。

主催者の彦根商工会議所会頭伊藤敬一氏は、「このユニークな企画事業をまちのにぎやかさをとりもどすための起爆剤になげたい」との意欲を示している。「商い体験」のほか、中心地商店街のウォークラリーや「仏壇・バルブ・ファンデーション」の各協同組合協賛による地場産業とのふれあい事業などのメニューを用意した。



少々まとまどうナギ売場の児童



併催のおもちゃ病院で



動力マシンにチャレンジ



仕事を通じて商店にしかない「おもしろさ」を発見してもらおうとした。主催者には、消費者として商店街に親しんでもらいたいとの期待

今回の彦根の事業の中でもとりわけ人気が集まったのが「商い体験」で、市内各小学校児童から予想を大きく上回る一二〇グループ三二〇人の申し込みが集まった。参加三十五店舗で二、三人のグループに分かれて、そろいのエプロン姿で店頭の掃除や店番などを体験し、商店の

盛況の「商い体験」

もあった。

初日の七月二十二日は参加児童の代表のテープカットに続き、それぞれの商店に配属されて、商品陳列や店頭の掃除などを体験した。観測史上最高の三十六・八度という暑さにもめげず各商店での指導のもと真剣に取り組んでいた。

七月三十日は、周辺商店街での夏祭りが開催され、活気ある中で、六店舗に分散して「商い体験」が実施された。銀座商店街の平和堂では、ちょうど土用の丑の日で開店と同時に本日の日玉商品のウナギが陳列されていた。ここでは、赤いはつぴ姿の児童が「商い体験」に参加し、ベテラン社員の大きなかけ声の脇で、とまどう光景もみられたが、一方、隣の牛乳の販売売り場では、涼しい店内にも関わらず、額に汗して懸命にパックを並べいる児童の姿があった。

事業に協賛した商店主の話では、概ね一生懸命に与えられた仕事をこなしているとの評判で、参加している児童も「楽しい」「また経験したい」との感想が聞かれた。

地場産業ふれあい体験では実技指導を

商店街の空き店舗を会場とした地場産業ふれあい体験にも人氣が集まり、伝統工芸師の指導による仏壇の金箔押しや蒔絵などの実技指導のほか動力マシン

を使つての縫製作業を体験した。中には親子での参加もあり、地場産業の理解を深める格好の機会となった。

平成12年度 近江商人あきない体験研修事業

商工会（議所）	学校名	内 容	商い日	TEL
高月町商工会	高月中学校	7/7に高月中2年が勤労体験 夕市」会場にて商い体験	8月26日 11月5日	0749-85-2297
虎姫町商工会	虎姫中学校	「とらひめまつり」にて商い体験	10月8日	0749-73-4060
伊吹町商工会	ス ポ 少	「商工フェア（ジョイ伊吹）にて商い体験	10月29日	0749-58-1311
米原町商工会	米原・醒井小	「鉄道フェスティバル」にて商い体験	11月3日	0749-52-0632
多賀町商工会	多 賀 小	門前町「たが楽市」にて商い体験	10月15日	0749-73-4060
安曇川町商工会	安曇川高校	一回目 安曇川駅前 二回目以降 商店街にて商い体験	一回目 7月29日 二回目 10月中旬	0740-32-1580
近江八幡商議所	市内小中学校 八幡商業	企業見学研修、空き店舗利用あきない体験、経験者による講演	7月8月25日～26日 本番11月1日～3日	0748-33-4141
栗東町商工会	栗東町内3中学校	ウイングプラザのポケットパークにて商い体験	8月26日～27日	077-552-0661
野洲町商工会	町内小中学校	「商工フェア」にて商い体験	11月中旬	077-587-2120
甲南町商工会	甲南中学校 甲南高校	「ニンニンフェア」にて商い体験	11月3日	0748-86-2016
甲賀町商工会	甲賀中学校	中2勤労体験、町行事（8耐マラソン）に合せ商い体験、勤労体験同時に経営者講演	10月8日	0748-88-2370
大津商工会議所	市内小中学校	ナカマチ商店街にて実施	8月7日～8日	
彦根商議所	市内小学校	提案公募型事業	7月22日～8月5日 のうち5日間	

地域が子どもを育てることとは

本事業の開催は、主催者の努力にも敬意を表するが、受け入れられる商店の対応も大変であったと思う。

日常、自分の子どもですら商店の手伝いをするのがなく、ましてや従業員を多く採用している商店もそんなに多くはない。いきなり、よその子どもにしかも短時間で商いの一端を経験

〔各地での事例から〕

キャリアウーマン養成合宿

(合衆国)

アメリカ合衆国では、夏休みを利用して女性起業家を育成する合宿がカリフォルニアを中心とした七カ所で開催されているが、いずれもが大盛況であるという。対象は十代の少女たちであるが、すでに起業している少女も参加して、熱心に自分の将来のビジョンに向かっての研修を続けている。

参加者は、自分の力で自分の生活を切り開いていこうとする力強さに溢れている。日本でも女性を対象とした起業家セミナーは各地で盛んに開催されてい

させることには非常に無理も多い。しかしながら、少なくとも子どもに勤労の経験の場を提供し、子どもが社会との接点を持ったことは大きな成果であった。参加商店のご苦労とともに、地域が一体となって子どもを教育することの必要性は、さらに大きく進展してほしいものである。

るが、こうした若年層向けに開催される事例はなく、また実際に成功に結びついている例も少ない状況である。

トライやる・ウィーク

(兵庫県)

合衆国の事例と比較すると日本での試みは、随分と隔たりがあるが、すでに先進的に職場体験を教育に取り入れている兵庫県では、平成十年から公立中学一三九校の二年生を対象に「地域に学ぶトライやる・ウィーク」を実施し、勤労生産活動、文化・芸術創作活動、福祉体験、ボランティア活動、そして職場体験活動などを五日から一週間

の期間に地域や企業の協力を得て継続開催している。

震災以後「心の教育」の重要性に直面した地域であることもその推進の大きな要素ではあったが、全国的にも進んだ、地域と学校の協力体制は高く評価されている。

近江商人発祥地八幡での取組み

近江商人発祥の地のひとつ近江八幡では、八幡商業高校の生徒の職場体験は数年前より実施され、仕入れから販売までの実際の商取引の経験などを修学旅行を通じて展開するなど先進的な取組を展開しているが、本年の「高校生あきない体験」では八月から十一月にかけて、商売とインターネット活用の経営講習会をはじめ、事業所見学習・販売演習講習会・販売実習などの事業を開催する。一方、小学生を対象とした「ジュニアあきない体験事業」では八月二十五〜二十六日の一泊二日の合宿で商売の基礎知識を学ぶことから販売までを地元企業の協賛を得て開催する。

滋賀県中小企業振興課と県商工会連合会が県内商工会・商工会議所に参加希望を募ったとこ

ろ十三の団体が参加を表明し、各地で「子ども商い体験事業」の具体的な展開が始まっている。大人の心に成長できない近年の児童・生徒にとって、職業体験の効果は予想以上に成果をあげるであろうことに期待した

い。それにつけても、「鉄は熱いうちに打て」の諺のごとく、早くからの商業教育を実践していた近江の商業英才教育の先見性に驚かされる。

近江商人と文化・芸術

シヤケ缶詰の「中一」の終焉と口話法の誕生

近江八幡を代表する近江商人西川伝右衛門家は、北海道での勇壮な活躍ぶりで知られる豪商です。八幡で松前屋「中一」と称し、松前を中心とした漁場の開拓、北海道の水産資源の加工などその事業は多岐にわたり、明治に入ってから、十代当主の西川貞二郎は八幡銀行の設立を始め、醒ヶ井養鱒場の開設や運営への資本提供や、県下物産を生かした缶詰工場設立など滋賀県の産業振興に貢献してきました。八幡に町制がしかれると初代町長に就任したものの一切の報酬を受けず、困窮する財政の建て直しにも奮闘しています。突然の病で、

最後は、衰退していた裏千家の復興や、多くの文人や芸術家への惜しみない支援を続けました。

最後の近江商人といわれる貞二郎の後継者が西川吉之助です。吉之助の娘浜子は、生まれながらにして、音のない世界に育ちました。当時、急速に広がっていた「手話」による健常者との会話を嫌った吉之助は、娘浜子が何とか話しかけようとした一途で商売から身を引き、口話法に独学でとりくみ、ついには娘とともに渡米し、ようやく「口話法」を編み出したのです。

連載

現代に息づく近江商人魂

【その④】

マザーズに上場した「まんだらけ」

七月二十六日にマザーズに上場したマンガの総合産業と自負する「まんだらけ」の社長古川益三は長浜市の出身。漫画の古書店というユニークな店舗展開とコスプレの店員に人気が集まっている。公開時には売りが多発し、ベンチャーに対する市場の混沌とした状況を表していた。まんだらけは昨年十一月にはロサンゼルスに出店し、日本ではサブカルチャーの扱いを受けるマンガも、海外では日本の文化として認識されていることからさらなる海外進出が視野にある。

高校時代までを長浜で過ごし、卒業後に漫画家をめざして上京した古川氏は、昭和五十二年に中野に二坪のマンガ古本舗を開店したことに端を発して、大阪、福岡などにも店舗展開を行い、三十一億の年商をあげる。テレビの「なんでも鑑定団」にも登場するマンガ古本界の第一人者でもある。湖北が大好きという彼は、毎

年びわ湖アイアンマンレースにも出場していた。この時が唯一の帰郷であったという。新しい日本の文化の発展のためにますますの活躍を期待したい。



写真提供「みーむ」編集室

莫大な財産も、娘と多くの会話ができない人々の幸せのために放出し、吉之助の情熱と浜子の上達により「口話法」は「手話」をしのぐ勢いで次第に普及するかに思えましたが。しかし口話法の伝授法は非常に困難を極め、一般に普及することはありませんでした。そして吉之助の謎の自殺という事件で名門「中一」は終焉という結果になったのです。一方、成長した浜子は、メレル・ヴォーリズ夫人真喜子さんが設立した幼稚園に勤務し、幼児に囲まれた幸せな生活を送りました。江戸から

明治にかけて活躍した近江商人西川伝右衛門家の終焉は、悲惨な結末の中にも、一抹の明るさを見出すことができます。



浜子さんが勤務していた兄弟社幼稚園

近江商人を否定する

墓石販売の「ニチリヨク」

個性的な経営を武器に事業参入十八年で業界初の株式公開を果たしたニチリヨクの創業者寺村久義社長は滋賀県彦根市の出身。バルブ工場を経営していた実家が大学を卒業後間もなく倒産し、その後一貫性があるとは言い難い数多くの事業を展開してきた。ニチリヨクは一九六六

年ダイレクトメールの発送代行から事業を始め、事業内容を何回も変えて一九八〇年に墓石の販売・施工業に参入。独自のアイデアでさらに葬祭ビジネスへの展開を計画している。滋賀県の出身という「近江商人の系譜を受け継いでいますね」といわれることを嫌う。「近

江商人のように我慢して辛抱しては機会を逸する。」「家やのれんにこだわるのも変化を求められているビジネスを固定的にする」と社名へのこだわりもみられない。ニチリヨクの経営を報じた日経産業新聞では、「グローバルスタンダードの波が押し寄せる一方で、近江商人や老

舗など日本古来の経営を再評価する動きは根強い。しかし、いかなる仕組みや考え方も批判的精神を持たないでうのみにしたのでは、事業の成長や革新にはつながらない。寺村社長のアンチ近江商人の是非よりも、経営者が自分の力で判断することの大切さを教えてくれる」と締めくくっている。真つ向から近江商人を否定する寺村社長ではあるが、伝統的な産業に独自のアイデアで攻め込んでいった事業展開そのものが近江商人的であると思うが如何であろうか。

— 21世紀の新商人を考える —

ネットビジネスの登場は、
本来の商人の役割をどのように変化させるのだろうか？

AKINDO ネットワーク 始動

AKINDO委員会では滋賀県が誇る無形文化財としての近江商人の商法や理念を新しい産業振興やまちづくりに活かすことを目的として様々な事業を展開してきました。今、産業界はもとより、将来の生活を大きく変えるであろうIT（情報技術）が大きな話題となっております。ネットビジネスの進展で商店の存続にも大きく影響するという懸念もありますが、それでは、21世紀の商人が果たす本当の役割は何かを考えていこうというのが、今回「AKINDOネットワーク」の試みです。始まったばかりですが、展開についての紹介とともに紙上でも将来の商人像について考えてみたいと思います。

電子商店主にみる近江商人的視点

IT革命が声高に叫ばれている時、電子商取引をめぐる話題に事欠かない状況であるが、電子商店のネットとして先行している「楽天」は、入念なりサー

チと足で稼ぐ営業、高度な技術力に裏打ちされた「堅実な経営」で上場しました。そして多くの企業主導のネットが苦戦の中

「傘や」の商店主宮武和広氏

は、六月に『電子商店繁盛の鉄則』を出版しましたが、その本には、かつて近江商人が鉄則としていたことと同様の言葉を多く見ることが出来ます。

- ・ 商売人が守るのは自分ではなくお客様。
 - ・ 「商いの心」なしでは商店の繁盛なし
 - ・ 売り手の常識は買い手の常識に非ず
 - ・ お客様のためになるものだけを売る
- その他にも、顧客満足を与える

AKINDOネットワーク

AKINDO委員会では、本年十一月に、近江八幡で「全国AKINDO会議2000」の開催を予定しています。開催に

むけて昨年来、日本の商人と近江商人との商法や理念などの比較検討、および日本の商人と世界の商人の特性などの調査を、多摩大学の望月照彦教授などの

チームに依頼し、その報告に基づいて、現在会議内容のスケジュールを調整しています。

会議の開催にむけて、先行してパソコンのネットを使つての討論が七月から始まりました。スタートしたばかりですが、企業や経営者の倫理観を問われる

数々の手法が平易に紹介されています。まさに今商人に必要なことは、商人としての倫理観や使命感と同時にITを戦略として生かせる技術力であることが理解できる著書となっております。インターネットは武器にはちがいありませんが、商人の本質を忘れてITに依存するだけでは、輝く未来はないことを警告しているのです。

そしてAKINDOネットワークでは、変革の時代にこそ必要な商人の本質について討議しようとしています。

事件が多発していることも影響し、参加メンバーの活発な討議が展開しています。

メールで討議する手法で、二十一世紀の商人のあり方や、IT革命時代の商人にとって必要な技術力などの議論が中心に展開されようとしています。

連日多くのIT関連の情報が報道されていますが掲載記事に翻弄されることなく、実際に参加し周辺の状況判断や他のメンバーとの討議の中から、理解を深めていきたいものです。多数のみなさんの参加を期待しています。

AKINDOネットワークの討論から

今秋、開催予定の「全国AKINDO会議2000」の開催に先駆けて、インターネット上で討論を行う「AKINDOネットワーク」がスタートしました。AKINDOネットワークは電子メール技術を通じて、参加者が互いに意見や情報交換を行うことができるネットワーク型の会議です。「全国AKINDO会議2000」が開催される秋までは、本会議のプレイ

ベントとして、月替わりのテーマ討論を運営しています。インターネットに接続できるパソコンがあれば、いつでも、どこからでも討論に参加することができます。七月現在のメンバーは二十三名。最初の月は「インターネット商業のみかた」と題するテーマをめぐって、参加者から意見や質問、コメントなどが送信されました。

また企業の不祥事事件が相次

いだこの月、AKINDOネットワークでも「そごう問題」や「雪印食中毒事件」をめぐって、企業のありかたやマスコミ報道の行き過ぎなどを批判する意見がだされました。

会システムの激変の時代にあつて、商人にとって理念の意味を問い直してみたいと思います。

ニューズレターはネットを運営している犬塚潤一さんが発行しています。

ネットワークの詳しい内容は左記をご参照ください。

全国AKINDO会議2000 開催

と き ● 2000年11月10日
午前10時～17時

ところ ● 近江八幡市 ホテル「ニューオウミ」

講演とシンポジウムで構成を予定。滋賀県の21世紀記念事業の一環として開催されます。

シンポジウムでは日本の代表的な商人発祥の地域から、研究者と実業に携わっている経営者および先進的なネット活用を行っている企業などの参加を予定しています。くわしいお問い合わせはAKINDO委員会事務局または下記AKINDO委員会ホームページをご覧ください。

<http://www.biwa.ne.jp/~akind>

「AKINDOネットワーク」に参加しませんか

電子メールのネットワークを通じて討論を行うAKINDOネットワークは、電子商取引の拡大、商店街の現状や問題に関心のある方のご参加を待っています。

■会議のテーマ

「21世紀社会における商人の役割」を基本テーマに3つのサブテーマを意見交流の軸に定めています。

1. 技術の世紀として
新しい技術を社会に実際にやくだてていく牽引車としての商人の役割
2. 文化の世紀として
個性を大切に文化を創造し育成する役割
3. コミュニティの世紀として
生活環境の豊かさを求める、暮らしの場づくりの役割

参加方法

住所・氏名・電話番号・電子メールアドレスを明記の上、電話・FAXまたは電子メールで下記へお申し込みください。

お問い合わせ先 滋賀県商工労働部AKINDO委員会事務局

TEL 077-523-4641 FAX 077-528-4877 E-mail: akindo@mx.biwa.ne.jp

11月のシンポジウムが効果的なものとなるように、多くのご参加をお待ちしています。

は成功しない 苦しい仕事から逃げて

近江商人の金言名句 ⑩
堤辰次郎商店
初代堤辰次郎氏の妻 堤いと子

愛知郡豊郷出身の初代堤辰次郎は、近江商人の典型のごとく明治初期、十五歳で蚊帳の行商として関東地方に赴き、文字通り刻苦精励を重ねて、八王子織物買継商として不動の地位を築いた。そして他の近江商人と同様に、八王子市や郷里の豊郷の神社寺院・学校などへの寄付を惜しまなかったが、その蓄財は辰次郎を表に立てながら店を切り盛りした夫人いと子が、大きく貢献したと言われている。

いと子が、店員をはじめ多くの人々に対して、口癖に話っていたことは、近江商人を支えてきた女性たちを代表する金言ともみるべきものが少なくない。

「苦しい仕事から逃げては成功しない。いやな苦しい仕事に対して嘸みつくようについて行け。そのうちに楽しい事になる。仕事は何ほどでもあつち方に転がっている。仕事の嫌いな者には、仕事は見えないものではない。仕事は見つけだせ。」この言葉もひとつである。

末永教授は、本年3月までカナダで、日本人移民などに関する調査研究をされていましたが、渡加中の研究の成果などを交えた新しい観点での近江商人の画像に迫る著作をこの度中公新書として出版されました。

本書の冒頭で「多文化主義のカナダで実際に生活して、改めて江戸時代以降に庶民の学問への欲求として自然発生的に開設された寺子屋以来の庶民教育機関に、近代契約社会の必要とする要素が多分に盛り込まれていたことを強く感じた。地理的に、さらには業種と取扱商品でも広



新書判238頁
定価本体740円+税

範囲に生産と消費を掘り起こし、需給を調整しながら明治まで存続してきた近江商人は、時代の進展で敗退したのではなく大衆消費社会にその姿をとけこませて

新刊紹介

AKINDO委員会研究ネットワーク座長の
末永國紀氏(同志社大学経済学部教授)が

『近江商人』を上梓

全国の書店で好評発売中

近江商人のふるさとを歩く



前号でご紹介しましたAKINDO委員会発行の『近江商人のふるさとを歩く』も好評発売中。カラー写真を多く採用した紙面はガイドブックとして最適で、近江商人の概要の解説も掲載されています。

(おわび) 前号で本書の価格にまちがいがございました。お詫びして訂正いたします。

近江商人のふるさと探訪ウォーク

八幡の商家とグルメの旅

とき 11月9日 ところ 近江八幡市
募集定員 80名 参加費 3500円

詳しくはAKINDO委員会事務局までお問い合わせください。

てんびん棒

「雪印」の品質管理とその後の対応や「そごう」の倒産に至る経過など、経営者の姿勢が大きく問われる問題が連続発生している。一方で、経営者としてのけじめのつかたで、大きくクローズアップされたのがセゾングループを率いてきた堤清二氏の個人資産の提供であった。

セゾンの負債総額に比して個人資産の提供が、どれほど影響するかは疑問ではあるが、少なくとも消費者を始め周辺への印象は大きく影響すると思う。

商人の世界に限らず、時代においても、また立場の如何に関わらず公私の分別や責任の取り方は、慎重に対処するべきである。

「梨下に冠を正さず」は中国の言葉であるが、個人の生活を厳しく律していた近江商人は、家訓でも繰り返し公私の分別を戒められてきた。税務当局との見解の相違として片づけられた孫正義氏の脱税問題は、IT革命の時代の寵児とされていただけに何とも言葉がない。子どもの商い体験は有意義な事業だと歓迎するが、その前に現実の社会に夢がもてる状況にすることも大人たちの責務といえよう。

(一)

行事予定

●ぶらりまちかど美術館・博物館

9月23日・24日(五個荘町金堂・川並)
近江商人のまちなみを中心に商家や寺院が未公開の名宝や座敷を公開し、美術館・博物館になります。

●<近江商人博物館>五個荘町

シリーズ近江商人群像
「外村与左衛門展」
—激動期の企業家精神を学ぶ—
11月1日~12月10日

●豊郷町「近江商人の町並み散歩」

とき 11月11日13時~
ところ 豊郷町内
詳細は豊郷町観光協会までお問い合わせください。
電話 0749-35-8114